

# 公立高等学校配置計画案

(令和4年度(2022年度)～6年度(2024年度))

令和3年(2021年)6月

北海道教育委員会



# 目 次

I	公立高等学校配置計画案（令和4年度（2022年度）～6年度（2024年度））策定の考え方	
1	趣旨	1
2	中卒者数の見込み	1
3	基本的考え方	1
4	配置計画案（令和4年度（2022年度）～6年度（2024年度））の概要	2
5	地域連携特例校の再編整備の留保	3
6	新たな特色ある高校の総称	3
7	配置計画の変更	3
II	公立高等学校配置計画案（令和4年度（2022年度）～6年度（2024年度））の内容	
1	中学校卒業生数	4
2	欠員の状況	4
3	定員及び中学校卒業生数に対する割合	4
4	配置計画案（令和4年度（2022年度）～6年度（2024年度））の学校別内訳	5
5	中学校卒業生数の推計及び推移	9
III	公立高等学校配置計画案（令和4年度（2022年度）～6年度（2024年度））学区別個表	
	空知南学区	11
	空知北学区	12
	石狩学区	13
	後志学区	15
	胆振西学区	16
	胆振東学区	17
	日高学区	18
	渡島学区	19
	檜山学区	20
	上川南学区	21
	上川北学区	22
	留萌学区	23
	宗谷学区	24
	オホーツク中学区	25
	オホーツク東学区	26
	オホーツク西学区	27
	十勝学区	28
	釧路学区	29
	根室学区	30

# I 公立高等学校配置計画案（令和4年度（2022年度）～6年度（2024年度）） 策定の考え方

## 1 趣旨

「公立高等学校配置計画」（以下「配置計画」という。）は、高等学校進学希望者数に見合った定員を確保することを基本として、中学校卒業者数（以下「中卒者数」という。）の状況を踏まえ、生徒の多様な学習ニーズ、進路動向などに対応した学校・学科の配置や規模の適正化を図るために、令和4年度（2022年度）から令和6年度（2024年度）までの高校配置の計画を策定するとともに、令和7年度（2025年度）から令和10年度（2028年度）までの見通しを示したものである。

## 2 中卒者数の見込み

本道の中卒者数は、令和4年（2022年）に4万1,835人、令和5年（2023年）に4万1,190人、令和6年（2024年）に4万1,023人となる見込みであり、その後も総じて減少傾向にある。

## 3 基本的考え方

配置計画の策定に当たっては、平成30年（2018年）3月に策定した「これからの高校づくりに関する指針」（以下「指針」という。）に基づき、中卒者数の増減に適切に対応し、教育水準の維持向上などを図る観点から、地域の実情、私立高校の配置状況等を考慮しながら定員の調整や学校の再編整備等を行うとともに、都市部において複数の高校が設置されている場合、望ましい規模の学校についても、地域の実情などに応じて再編整備を行う。

また、生徒の多様な学習ニーズなどに対応するため、次のとおり多様なタイプの高校づくり等を推進する。

### (1) 職業学科の学科転換

産業構造の変化や学科の配置状況、生徒の進路動向などを考慮し、職業学科の学科転換を検討する。

### (2) 総合学科の設置

生徒の多様な能力・適性、興味・関心、進路希望等に応じて、普通教育と専門教育に関する多様な科目を選択して学ぶことができ、幅広い進路希望に対応が可能となる総合学科の設置を進める。

### (3) 単位制の導入

学年による教育課程の区分を設けず、高校の生徒が必ず学ばなければならない科目のほか、学校が開設した多数の選択科目の中から、興味・関心や進路希望等に応じて自分で科目を選択し、主体的な学習が可能となる単位制の導入を進める。

### (4) 地域連携特例校の導入

他の高校への通学が困難な地域を抱え、かつ地元からの進学率が高い（普通科はおよそ1/2、専門学科はおよそ1/4）第1学年1学級の高校を地域連携特例校とし、協力校との連携や北海道高等学校遠隔授業配信センターからの遠隔授業の配信など、教育活動への支援等により、教育環境の充実を図る。

#### 4 配置計画案（令和4年度（2022年度）～6年度（2024年度））の概要

昨年決定した令和4年度（2022年度）及び令和5年度（2023年度）の計画を一部変更するとともに、新たに令和6年度（2024年度）の配置計画を策定する。

##### (1) 学級定員

「公立高等学校の適正配置及び教職員定数の標準等に関する法律」に基づき、1学級の定員は40人とする。

##### (2) 令和4年度（2022年度）（令和2年度（2020年度）決定）高校配置計画の変更 全日制課程

###### ア 地域連携特例校の導入

令和4年度（2022年度）募集学級数が1学級の場合に、教育環境の維持向上を図るため、新たに本別高校及び標津高校を地域連携特例校とする。

###### イ その他

令和3年度（2021年度）道立高等学校入学者選抜の結果、第2次募集後の入学者に1学級相当以上の欠員が生じ学級減を行った栗山高校など23校の令和4年度（2022年度）の募集学級数は、中卒者数の状況や生徒の進路動向等を精査し、計画決定時に公表する。

##### 定時制課程

令和3年度（2021年度）道立高等学校入学者選抜の結果、第2次募集後の入学者に1学級相当以上の欠員が生じ学級減を行った札幌北高校の令和4年度（2022年度）の募集学級数は、中卒者数の状況や生徒の進路動向等を精査し、計画決定時に公表する。

##### (3) 令和5年度（2023年度）（令和2年度（2020年度）決定）高校配置計画の変更等 全日制課程

###### ア 学級減・学科転換

美幌高校について、中卒者数の状況や生徒の進路動向、募集定員に対する欠員の状況、学校・学科の配置状況などを勘案し1学級減とするとともに、生産環境科学科及び地域資源応用科を未来農業科に学科転換する。

###### イ 再編整備・単位制の導入

名寄高校及び名寄産業高校の再編統合により設置する新設校について、生徒の進路動向や学校・学科の配置状況、地元の要望などを勘案し、募集学級数を普通科4学級及び情報技術科1学級とするとともに、生徒の多様な興味・関心や進路希望等に応じた主体的な学習が可能となるよう、両学科に単位制を導入する。

留辺蘂高校について、中卒者数の状況、学校規模、募集定員に対する欠員の状況、地元からの進学率などを勘案し、募集停止とする。

##### (4) 令和6年度（2021年度）高校配置計画

##### 全日制課程

通学区域内の中卒者数を基礎として、生徒の進路動向や学校・学科の配置状況、各学校の在籍状況などを勘案し、岩見沢東高校など6校で6学級の減を行う。

## 5 地域連携特例校の再編整備の留保

第1学年1学級の高校のうち、地域連携特例校及び農業、水産、看護又は福祉に関する学科を置く高校については、5月1日現在の第1学年の在籍者数が20人未満となり、その後も生徒数の増が見込まれない場合は再編整備を進めることとしているが、こうした状況となっている平取高校、興部高校及び阿寒高校は、所在市町村をはじめとした地域における、高校の教育機能の維持向上に向けた具体的取組とその効果を勘案し、再編整備を留保する。

## 6 新たな特色ある高校の総称

基礎的・基本的な知識・技能の確実な定着や社会的・職業的自立に向け必要な能力や態度の育成に重点を置く学校として、令和4年度（2022年度）から野幌高校及び千歳北陽高校に導入する新たな特色ある高校の総称を「アンビシャススクール」とする。

## 7 配置計画の変更

配置計画を策定した後、急激な中卒者数の増減や生徒の進路動向に大きな変動が生じた場合など、学区における中卒者の進路動向等を見極めて、毎年度再検討するほか、次の(1)～(4)に掲げる場合にあっては配置計画を変更することとする。

- (1) 入学者選抜における第2次募集の合格発表後、配置計画で示した募集人員に対し1学級相当以上の欠員が生じた場合
- (2) 5月1日現在の第1学年の在籍者が指針に示した人数要件に該当し、その後も生徒数の増が見込まれない場合
- (3) 学級減と併せた学科転換、地域連携特例校の導入等を実施する場合
- (4) 市町村立高校について、当該市町村において募集人員等の変更を行った場合

## II 公立高等学校配置計画案（令和4年度（2022年度）～6年度（2024年度））の内容

### 1 中学校卒業生数

令和3年(2021年)(実績)	40,983人	(対前年比 1,513人減少)
令和4年(2022年)(推計)	41,835人	(対前年比 852人増加)
令和5年(2023年)(推計)	41,190人	(対前年比 645人減少)
令和6年(2024年)(推計)	41,023人	(対前年比 167人減少)

### 2 欠員の状況

（令和3年（2021年）5月1日現在）

公立高等学校全日制	公立高等学校定時制	私立高等学校	合計
3,768人 (175人)	1,266人 (-41人)	1,070人 (245人)	6,104人 (379人)

※（ ）は対前年増減

### 3 定員及び中学校卒業生数に対する割合

区分	公立			高等専門学校	私立	計		
	全日制	定時制	中等教育学校					
令和3年度	定員(人)	30,090	2,200	240	720	11,207	44,457	
	割合(%)	73.4	5.4	0.6	1.8	27.3	108.5	
公立高等学校配置計画案	令和4年度	学級増(人)	160	0	0	0	0	160
		学級減(人)	0	0	0	0	0	0
		新設(人)	0	0	0	0	0	0
		募集停止(人)	0	0	0	0	0	0
		差引増減(人)	160	0	0	0	0	160
		定員(人)	30,250	2,200	240	720	11,207	44,617
		割合(%)	72.3	5.3	0.6	1.7	26.8	106.6
令和5年度	学級増(人)	0	0	0	0	0	0	
	学級減(人)	-280	0	0	0	0	-280	
	新設(人)	200	0	0	0	0	200	
	募集停止(人)	-280	0	0	0	0	-280	
	差引増減(人)	-360	0	0	0	0	-360	
	定員(人)	29,890	2,200	240	720	11,207	44,257	
	割合(%)	72.6	5.3	0.6	1.7	27.2	107.4	
令和6年度	学級増(人)	0	0	0	0	0	0	
	学級減(人)	-240	0	0	0	0	-240	
	新設(人)	0	0	0	0	0	0	
	募集停止(人)	0	0	0	0	0	0	
	差引増減(人)	-240	0	0	0	0	-240	
	定員(人)	29,650	2,200	240	720	11,207	44,017	
	割合(%)	72.3	5.4	0.6	1.8	27.3	107.3	

※1 高等専門学校及び私立の定員については、令和4年度（2022年度）以降は見込みを記載。

※2 霧多布高校（浜中町立）は、1学級の定員を30人としている。

※3 えりも高校（えりも町立）は、1学級の定員を35人としている。

#### 4 配置計画案（令和4年度（2022年度）～6年度（2024年度））の学校別内訳

##### ◎ 令和4年度（2022年度）～6年度（2024年度）高校配置計画

##### (1) 令和3年度（2021年度）道立高等学校入学者選抜における第2次募集後に学級減となった学校の取扱い

学 区	設置	学 校 名	課程	小 学 科	R 3 (2021) 募集学級数	R 3 (2021) 開設学級数	R 4 (2022) 募集学級数
空 知 南	道	栗 山	全	普 通	2	1	計画決定時 に 公 表
空 知 北	道	砂 川	全	普 通	3	2	
	道	深 川 西	全	普 通	3	2	
石 狩	道	札幌南陵	全	普 通	4	3	
	道	札幌東豊	全	普 通	4	3	
	道	札幌あすかぜ	全	普 通	6	4	
	道	北 広 島 西	全	普 通	7	6	
	道	恵 庭 北	全	普 通	7	5	
後 志	道	余 市 紅 志	全	総 合	2	1	
	道	岩 内	全	普 通	3	2	
胆 振 西	道	伊 達 開 来	全	普 通	6	5	
渡 島	道	森	全	総 合	2	1	
檜 山	道	江 差	全	普 通	3	2	
上 川 南	道	美 瑛	全	普 通	2	1	
留 萌	道	留 萌	全	普 通	4	3	
	道	天 塩	全	普 通	2	1	
オホーツク中	道	美 幌	全	普 通	2	1	
オホーツク西	道	湧 別	全	普 通	2	1	
十 勝	道	音 更	全	普 通	3	2	
	道	広 尾	全	普 通	2	1	
	道	本 別	全	普 通	2	1	
根 室	道	中 標 津	全	普 通	4	3	
	道	標 津	全	普 通	2	1	
石 狩	道	札 幌 北	定	普 通	2	1	
計		全23校 定1校					

##### (2) 学級増減

##### ① 学級増

実施年度	学 区	設置	学 校 名	課程	小 学 科	募集学級数		学級増減数	1学年総学級数
						実施前	実施後		
R 4 (2022)	石 狩	道	札幌月寒	全	普 通	7	8	+1	7学級→8学級
		道	札幌北陵	全	普 通	7	8	+1	7学級→8学級
		道	札幌手稲	全	普 通	7	8	+1	7学級→8学級
		道	札幌丘珠	全	普 通	7	8	+1	7学級→8学級
	道	恵 庭 北	全	普 通	5			計画決定時に公表	
	(小計)		5校				+4		
R 5 (2023)					—				
R 6 (2024)					—				
計			5校				+4 (+160)		

- ・ R 4 (2022) において、恵庭北を普通科7学級から1学級増の8学級とする計画であったが、令和3年度道立高等学校入学者選抜において第2次募集後の学級減により、2学級減の5学級となったため、R 4 (2022) の募集学級数は、中卒者数の状況などを勘案し、計画決定時に公表する。



② 学級減（※印は、令和2年度（2020年度）に決定した配置計画からの変更。）

実施年度	学 区	設置	学 校 名	課程	小 学 科	募集学級数		学級増減数	1 学年総学級数
						実施前	実施後		
R 4 (2022)	—								
R 5 (2023)	後 志	道	小樽潮陵	全	普通	6	5	-1	6学級→5学級
	胆 振	道	室 蘭 栄	全	普通	4	3	-1	6学級→5学級
	渡 島	市	市立函館	全	普通	6	5	-1	6学級→5学級
	上 川 南	道	旭 川 北	全	普通	6	5	-1	6学級→5学級
		道	旭 川 南	全	総合	6	5	-1	6学級→5学級
	才ホーツク中	道	美 幌	全	※農業(学科)	2	1	-1	計画決定時に公表
(小計)		7校						-7	
R 6 (2024)	空 知 南	道	岩見沢東	全	普通	5	4	-1	5学級→4学級
	宗 谷	道	利 尻	全	(検討中)	(検討中)		-1	2学級→1学級
	釧 路	道	釧路湖陵	全	普通	5	4	-1	6学級→5学級
		道	釧路商業	全	(検討中)	(検討中)		-1	4学級→3学級
		道	釧路明輝	全	総合	5	4	-1	5学級→4学級
	道	釧路東	全	普通	3	2	-1	3学級→2学級	
(小計)		6校						-6	
計		13校						-13 (-520)	

- ・美幌の小学科については、「(4) 職業学科の学科転換」を参照。
- ・美幌（普通科）は令和3年度道立高等学校入学者選抜における第2次募集後の学級減となったため、R5（2023）の1学年総学級数は、中卒者数の状況などを勘案し、計画決定時に公表する。

(3) 再編整備

① 再編統合（※印は、令和2年度（2020年度）に決定した配置計画からの変更。）

実施年度	学 区	設置	学 校 名	課程	小 学 科	募集学級数		学級増減数	摘 要
						実施前	実施後		
R 4 (2022)	—								
R 5 (2023)	上 川 北	道	名 寄	全	普通	3	0	-3	3学級→0学級
		道	名 寄 産 業	全	嚙・嚙以弘	1	0	-1	3学級→0学級
				全	酪農科学	1	0	-1	
				全	生活文化	1	0	-1	
	道	新 設 校	全	※普通	0	※4	+4	5学級	
全	※情報技術	0	※1	+1	名寄高校の校舎を使用				
(小計)		再編に伴う募集停止2校、新設1校						-1(6学級の減、新設校で5学級の増)	
R 6 (2024)	—								
計		再編に伴う募集停止2校、新設1校						-1 (-40)	

② 募集停止

実施年度	学 区	設置	学 校 名	課程	小 学 科	募集学級数		学級増減数	摘 要
						実施前	実施後		
R 4 (2022)	—								
R 5 (2023)	オホーツク中	道	留 辺 薬	全	総 合	1	0	-1	1学級→0学級
R 6 (2024)	—								
計			1校					-1 (-40)	

(4) 職業学科の学科転換（再編によるものを除く）

（※印は、令和2年度（2020年度）に決定した配置計画からの変更。）

実施年度	学 区	設置	学 校 名	課程	小 学 科	募集学級数		学級増減数	摘 要
						実施前	実施後		
R 4 (2022)	—								
R 5 (2023)	オホーツク中	道	※美 幌	全	生産環境科学	1	0	-1	(再掲) 1学年総学級数は 計画決定時に公表
					地域資源応用	1	0	-1	
					未来農業	0	1	+1	
R 6 (2024)	—								
計			1校					-1 (-40)	

(5) 理数科の設置

実施年度	学 区	設置	学 校 名	課程	小 学 科	募集学級数		学級増減数	摘 要
						実施前	実施後		
R 4 (2022)	渡 島	道	函 館 中 部	全	普 通	5	4	-1	
					理 数	0	1	+1	
	オホーツク中	道	北 見 北 斗	全	普 通	6	5	-1	
					理 数	0	1	+1	
(小計)		2校					±0		
R 5 (2023)	—								
R 6 (2024)	—								
計			2校					±0 (±0)	

(6) その他専門学科の設置

実施年度	学 区	設置	学 校 名	課程	小 学 科	募集学級数		学級増減数	摘 要
						実施前	実施後		
R 4 (2022)	石 狩 市	市	市立札幌旭丘	全	普 通	8	6	-2	理数と情報に関する その他専門学科
					(検討中)	0	2	+2	
R 5 (2023)	—								
R 6 (2024)	—								
計			1校					±0 (±0)	

(7) 総合学科の設置

実施年度	学 区	設置	学 校 名	課 程	小 学 科	募集学級数		学級増減数	摘 要
						実施前	実施後		
R 4 (2022)	石 狩 道		千 歳 北 陽	全	普 通	4	0	- 4	フィールド制の転換
					綜 合	0	4	+ 4	
R 5 (2023)									
R 6 (2024)									
計			1 校					± 0 (± 0)	

(8) 単位制の導入

(※印は、令和2年度(2020年度)に決定した配置計画からの変更。)

実施年度	学 区	設置	学 校 名	課 程	小 学 科	募集学級数	摘 要
R 4 (2022)	釧 路 市		釧 路 北 陽	全	普 通	5	フィールド制の転換
R 5 (2023)	上 川 北 道		※新 設 校	全	普 通	4	(再掲) 名寄・名寄産業の再編
				全	情報技術	1	
R 6 (2024)							
計			2 校				

(9) 普通科フィールド制の転換・アンビシャススクールの導入

実施年度	学 区	設置	学 校 名	課 程	募集学級数	摘 要
R 4 (2022)	石 狩 道	道	札 幌 丘 珠	全	8	普通科に転換
		道	野 幌	全	3	普通科に転換 アンビシャススクールを導入
		道	千 歳 北 陽	全	4	(再掲) 総合学科に転換 アンビシャススクールを導入
	釧 路 市	釧 路 北 陽	全	5	(再掲) 単位制を導入	
(小計)			4 校			
R 5 (2023)						
R 6 (2024)						
計			4 校			

・基礎的・基本的な知識・技能の確実な定着や社会的・職業的自立に向け必要な能力や態度の育成に重点を置く学校として、令和4年度(2022年度)から野幌高校及び千歳北陽高校に導入する新たな特色ある高校の総称を「アンビシャススクール」とする。

(10) 地域連携特例校の導入(※印は、令和2年度(2020年度)に決定した配置計画からの変更。)

実施年度	学 区	設置	学 校 名	課 程	小 学 科	協 力 校	摘 要
R 4 (2022)	十 勝 道	道	※本 別	全	普 通	帯 広 柏 葉	
			※標 津	全	普 通	中 標 津	
(小計)			2 校			2 校	
R 5 (2023)							
R 6 (2024)							
計			2 校			2 校	

## 5 中学校卒業生数の推計及び推移

中学校卒業生数推計表（令和3年(2021年)推計）

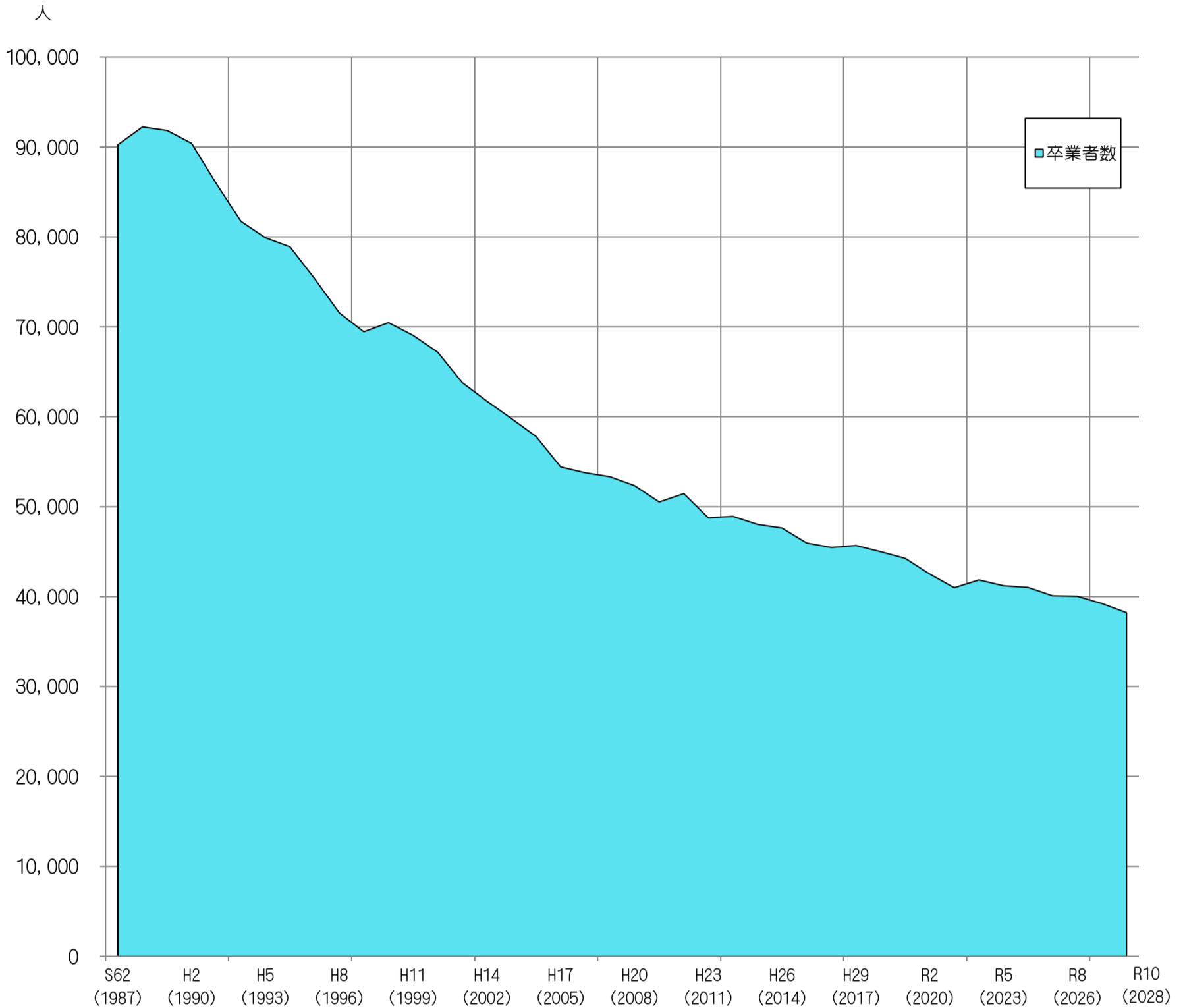
	令和3年 (2021年)	令和4年 (2022年)	令和5年 (2023年)	令和6年 (2024年)	令和7年 (2025年)	令和8年 (2026年)	令和9年 (2027年)	令和10年 (2028年)
空知南	1,116	1,085 ▲ 31	1,101 +16	992 ▲ 109	1,051 +59	1,035 ▲ 16	1,011 ▲ 24	929 ▲ 82
空知北	853	902 +49	866 ▲ 36	828 ▲ 38	807 ▲ 21	818 +11	747 ▲ 71	717 ▲ 30
石狩	18,729	19,346 +617	19,415 +69	19,513 +98	19,278 ▲ 235	19,416 +138	18,988 ▲ 428	18,791 ▲ 197
後志	1,413	1,429 +16	1,394 ▲ 35	1,374 ▲ 20	1,371 ▲ 3	1,345 ▲ 26	1,302 ▲ 43	1,246 ▲ 56
胆振西	1,362	1,388 +26	1,349 ▲ 39	1,320 ▲ 29	1,219 ▲ 101	1,192 ▲ 27	1,191 ▲ 1	1,168 ▲ 23
胆振東	1,706	1,743 +37	1,662 ▲ 81	1,698 +36	1,696 ▲ 2	1,662 ▲ 34	1,614 ▲ 48	1,599 ▲ 15
日高	509	549 +40	510 ▲ 39	497 ▲ 13	471 ▲ 26	486 +15	460 ▲ 26	476 +16
渡島	2,969	2,982 +13	2,781 ▲ 201	2,944 +163	2,768 ▲ 176	2,661 ▲ 107	2,676 +15	2,511 ▲ 165
檜山	243	228 ▲ 15	225 ▲ 3	193 ▲ 32	209 +16	216 +7	204 ▲ 12	179 ▲ 25
上川南	3,443	3,493 +50	3,327 ▲ 166	3,305 ▲ 22	3,202 ▲ 103	3,187 ▲ 15	3,184 ▲ 3	3,046 ▲ 138
上川北	465	470 +5	454 ▲ 16	428 ▲ 26	429 +1	403 ▲ 26	403 ±0	399 ▲ 4
留萌	295	292 ▲ 3	309 +17	285 ▲ 24	265 ▲ 20	280 +15	260 ▲ 20	265 +5
宗谷	505	499 ▲ 6	466 ▲ 33	452 ▲ 14	430 ▲ 22	408 ▲ 22	399 ▲ 9	397 ▲ 2
オホーツク中	1,127	1,169 +42	1,145 ▲ 24	1,177 +32	1,097 ▲ 80	1,171 +74	1,058 ▲ 113	1,110 +52
オホーツク東	510	491 ▲ 19	441 ▲ 50	496 +55	473 ▲ 23	467 ▲ 6	483 +16	435 ▲ 48
オホーツク西	456	421 ▲ 35	422 +1	397 ▲ 25	381 ▲ 16	412 +31	408 ▲ 4	360 ▲ 48
十勝	2,860	2,858 ▲ 2	2,883 +25	2,848 ▲ 35	2,750 ▲ 98	2,739 ▲ 11	2,739 ±0	2,625 ▲ 114
釧路	1,773	1,815 +42	1,798 ▲ 17	1,656 ▲ 142	1,615 ▲ 41	1,594 ▲ 21	1,524 ▲ 70	1,428 ▲ 96
根室	649	675 +26	642 ▲ 33	620 ▲ 22	583 ▲ 37	538 ▲ 45	585 +47	541 ▲ 44
合計	40,983	41,835 +852	41,190 ▲ 645	41,023 ▲ 167	40,095 ▲ 928	40,030 ▲ 65	39,236 ▲ 794	38,222 ▲ 1,014

※中学校卒業生数は、令和3年（2021年）5月1日現在の小学校1年生から中学校3年生までの在籍児童・生徒数を基に、過去の社会的増減等を勘案した推計値。

※令和3年（2021年）は実数、令和4年（2022年）以降の上段は中卒者数、下段は前年比増減。

## 北海道における中学校卒業（見込）者数の推移 （昭和62年（1987年）～令和10年（2028年））

（注） 1 昭和62年（1987年）～令和3年（2021年）は実卒業生数である。  
 2 令和4年（2022年）～令和10年（2028年）は学校基本調査（令和3年（2021年）5月1日現在）に準じた調査による在籍児童・生徒数を基に推計した。



年	S62 (1987)	S63 (1988)	H元 (1989)	H2 (1990)	H3 (1991)	H4 (1992)	H5 (1993)	H6 (1994)	H7 (1995)	H8 (1996)	H9 (1997)	H10 (1998)	H11 (1999)
卒業生数	90,257	92,222	91,810	90,400	85,909	81,733	79,911	78,884	75,348	71,550	69,441	70,462	69,047
増減	+1,298	+1,965	-412	-1,410	-4,491	-4,176	-1,822	-1,027	-3,536	-3,798	-2,109	+1,021	-1,415

年	H12 (2000)	H13 (2001)	H14 (2002)	H15 (2003)	H16 (2004)	H17 (2005)	H18 (2006)	H19 (2007)	H20 (2008)	H21 (2009)	H22 (2010)	H23 (2011)	H24 (2012)
卒業生数	67,180	63,800	61,714	59,783	57,804	54,415	53,778	53,330	52,339	50,537	51,437	48,778	48,907
増減	-1,867	-3,380	-2,086	-1,931	-1,979	-3,389	-637	-448	-991	-1,802	+900	-2,659	+129

年	H25 (2013)	H26 (2014)	H27 (2015)	H28 (2016)	H29 (2017)	H30 (2018)	R元 (2019)	R2 (2020)	R3 (2021)	R4 (2022)	R5 (2023)	R6 (2024)	R7 (2025)
卒業生数	48,015	47,620	45,958	45,458	45,689	44,989	44,255	42,496	40,983	41,835	41,190	41,023	40,095
増減	-892	-395	-1,662	-500	+231	-700	-734	-1,759	-1,513	+852	-645	-167	-928

年	R8 (2026)	R9 (2027)	R10 (2028)
卒業生数	40,030	39,236	38,222
増減	-65	-794	-1,014

Ⅲ 公立高等学校配置計画案（令和4年度（2022年度）～6年度（2024年度））学区別個表

空知南学区高校配置計画案										
区 分	R 3 (2021)	R 4 (2022)	R 5 (2023)	R 6 (2024)	R 7 (2025)	R 8 (2026)	R 9 (2027)	R 10 (2028)	令和4～10 (2022～ 2028)年まで の増減	令和7～ 10(2025～ 2028)年まで の増減
学区内中卒者数	1,116	1,085	1,101	992	1,051	1,035	1,011	929		
対前年増減		▲ 31	+ 16	▲ 109	+ 59	▲ 16	▲ 24	▲ 82	▲ 187	▲ 63
岩見沢市中卒者数	( 618 )	( 634 )	( 611 )	( 577 )	( 579 )	( 604 )	( 589 )	( 531 )		
対前年増減		+ 16	▲ 23	▲ 34	+ 2	+ 25	▲ 15	▲ 58	▲ 87	▲ 46
美唄市中卒者数	( 137 )	( 130 )	( 129 )	( 115 )	( 129 )	( 110 )	( 94 )	( 92 )		
対前年増減		▲ 7	▲ 1	▲ 14	+ 14	▲ 19	▲ 16	▲ 2	▲ 45	▲ 23
三笠市中卒者数	( 60 )	( 51 )	( 39 )	( 46 )	( 45 )	( 50 )	( 32 )	( 48 )		
対前年増減		▲ 9	▲ 12	+ 7	▲ 1	+ 5	▲ 18	+ 16	▲ 12	+ 2
夕張市中卒者数	( 33 )	( 31 )	( 34 )	( 34 )	( 30 )	( 24 )	( 36 )	( 28 )		
対前年増減		▲ 2	+ 3	± 0	▲ 4	▲ 6	+ 12	▲ 8	▲ 5	▲ 6
学校名	令和3年度 (2021年度)の状況 学科及び募集学級数			R 3 (2021) 欠員	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)	令和7～10年度(2025～2028年度) までの見通し		摘要
	普通	職業	計							
岩見沢東	5		5	11			普▲1	○4年間で1～2学級に相当する中卒者の減 ○欠員の状況や学校・学科の配置状況を考慮して、岩見沢市内において再編整備を含めた公立高校全体での定員調整の検討が必要 ○小規模校について、中卒者数やこれまでの進学状況、学校・学科の配置状況などを考慮し、在り方の検討が必要 ○地域連携特例校について、5月1日現在の在籍者数が20人未満となった場合は、所在市町村をはじめとした地域における、高校の教育機能の維持向上に向けた具体的取扱いとその効果を助案した上で、再編整備の留保の検討が必要 ○定時制課程について、5月1日現在の第1学年の在籍者数が10人未満となり、その後も生徒数の増が見込まれない場合は、再編整備の検討が必要としているが、定時制課程の在り方については、国の施策動向を踏まえて検討することが必要(岩見沢東)	月形、夕張の協力校	
単 岩見沢西	3		3	0						
岩見沢農業		農 7	7	35						
*岩見沢緑陵	3	商 2	5	19						
総 美唄尚栄	2		2	33						
美唄聖華		看 2	2	16						
*三 笠		家 1	1	-1						
地 月 形	1		1	29						
地 夕 張	1		1	24						
長 沼	2		2	28						
栗 山	2→1		1	0	( 計画決定時に公表 )					
11校	19 →18	12	30	194			普▲1		R3(2021)入選第2次募集後学級減	

注1 学科種別の「普通」には、普通科のほか、総合学科、理数、外国語、体育等の専門学科を含む。(以下同)

注2 学校名の「単」は単位制、「総」は総合学科、「フ」はフィールド制、「中高」は連携型中高一貫教育校、「中等」は中等教育学校、「地」は地域連携特例校、「産」は産業キャンパス。(以下同)

注3 学校名の\*は市町村立学校。(以下同)

注4 ( ) は定時制課程(計欄には含まない、関係学校のみ表示)。(以下同)

注5 令和3年度(2021年度)募集学級数の「→」表示は、第2次募集後の学級減を実施したことを示す。(以下同)

なお、令和4年度(2022年度)の募集学級数は、中卒者数の状況や生徒の進路動向等を精査し、計画決定時に公表する。(以下同)

注6 「令和7～10年度(2025～2028年度)までの見通し」欄の学級数の調整については令和10年(2028年)と令和6年(2024年)の中卒者数の比較により算出。(以下同)

### 空知北学区高校配置計画案

区 分	R 3 (2021)	R 4 (2022)	R 5 (2023)	R 6 (2024)	R 7 (2025)	R 8 (2026)	R 9 (2027)	R 10 (2028)	令和 4～10 (2022～ 2028)年まで の増減	令和 7～ 10(2025～ 2028)年まで の増減
学区内中卒者数	853	902	866	828	807	818	747	717	▲ 136	▲ 111
対前年増減		+ 49	▲ 36	▲ 38	▲ 21	+ 11	▲ 71	▲ 30		
滝川市中卒者数	( 277 )	( 318 )	( 301 )	( 276 )	( 286 )	( 287 )	( 288 )	( 254 )	▲ 23	▲ 22
対前年増減		+ 41	▲ 17	▲ 25	+ 10	+ 1	+ 1	▲ 34		
砂川市中卒者数	( 129 )	( 119 )	( 120 )	( 118 )	( 108 )	( 107 )	( 82 )	( 91 )	▲ 38	▲ 27
対前年増減		▲ 10	+ 1	▲ 2	▲ 10	▲ 1	▲ 25	+ 9		
歌志内市中卒者数	( 13 )	( 18 )	( 15 )	( 13 )	( 11 )	( 6 )	( 11 )	( 8 )	▲ 5	▲ 5
対前年増減		5	▲ 3	▲ 2	▲ 2	▲ 5	+ 5	▲ 3		
芦別市中卒者数	( 79 )	( 74 )	( 56 )	( 63 )	( 60 )	( 57 )	( 52 )	( 55 )	▲ 24	▲ 8
対前年増減		▲ 5	▲ 18	+ 7	▲ 3	▲ 3	▲ 5	+ 3		
赤平市中卒者数	( 43 )	( 61 )	( 63 )	( 50 )	( 50 )	( 45 )	( 48 )	( 35 )	▲ 8	▲ 15
対前年増減		+ 18	+ 2	▲ 13	± 0	▲ 5	+ 3	▲ 13		
深川市中卒者数	( 125 )	( 124 )	( 126 )	( 116 )	( 113 )	( 120 )	( 100 )	( 114 )	▲ 11	▲ 2
対前年増減		▲ 1	+ 2	▲ 10	▲ 3	+ 7	▲ 20	+ 14		
学校名	令和 3 年度 (2021年度)の状況 学科及び募集学級数 普通 職業 計			R 3 (2021) 欠員	令和 4 年度 (2022年度)	令和 5 年度 (2023年度)	令和 6 年度 (2024年度)	令和 7～10年度 (2025～2028年度) までの見通し		摘要
単 滝 川	5		5	2				○ 4 年間で 2～3 学級に相当する中卒者の減		R3(2021)入選第 2 次募集 後学級減
滝川工業		工 2	2	39				○ 滝川市内において、欠員の状況や望ましい 学校規模を下回る学校があることを考慮 し、公立高校全体での再編を含めた早急な 定員調整の検討が必要		
*滝川西	3	商 3	6	13				○ 深川市内において、欠員の状況や望ましい 学校規模を下回る学校があることを考慮 し、再編を含めた早急な定員調整の検討が 必要		
単 砂 川	3→2		2	31	[ 計画決定時 に公表 ]			○ 小規模校について、中卒者数やこれまでの 進学状況、学校・学科の配置状況などを考 慮し、在り方の検討が必要		
奈井江商業		商 1	1	21				特に、地域連携特例校等以外の第 1 学年 1 学級の高校が、地域連携特例校等の再編 整備の取扱い（第 1 学年の在籍者数が 20 人 未満となり、その後も生徒数の増が見込ま れない場合）と同様の在籍状況となる場合 は、再編整備の検討が必要		
新十津川農業		農 1	1	25				○ 農業に関する学科を置く高校について、5 月 1 日現在の在籍者数が 20 人未満となっ た場合は、所在市町村をはじめとした地域 における、高校の教育機能の維持向上に向 けた具体的取扱いとその効果を勘案した上 で、再編整備の留保の検討が必要		
芦 別	2		2	27				○ 定時制課程について、5 月 1 日現在の第 1 学年の在籍者数が 10 人未満となり、その 後も生徒数の増が見込まれない場合は、再 編整備の検討が必要としているが、定時制 課程の在り方については、国の施策動向を 踏まえて検討することが必要（滝川）		
深川西	3→2		2	14	[ 計画決定時 に公表 ]					
深川東		農 1 商 1	2	56						
9校	16 →14	9	23	228						

### 石狩学区高校配置計画案

区 分	R 3 (2021)	R 4 (2022)	R 5 (2023)	R 6 (2024)	R 7 (2025)	R 8 (2026)	R 9 (2027)	R 10 (2028)	令和4～10 (2022～ 2028)年まで の増減	令和7～ 10(2025～ 2028)年まで の増減
学区内中卒者数	18,729	19,346	19,415	19,513	19,278	19,416	18,988	18,791	+ 62	▲ 722
対前年増減		+ 617	+ 69	+ 98	▲ 235	+ 138	▲ 428	▲ 197		
札幌市中卒者数	( 14,836 )	( 15,276 )	( 15,492 )	( 15,515 )	( 15,454 )	( 15,610 )	( 15,173 )	( 15,042 )	+ 206	▲ 473
対前年増減		+ 440	+ 216	+ 23	▲ 61	+ 156	▲ 437	▲ 131		
江別市中卒者数	( 1,136 )	( 1,198 )	( 1,113 )	( 1,178 )	( 1,114 )	( 1,210 )	( 1,206 )	( 1,209 )	+ 73	+ 31
対前年増減		+ 62	▲ 85	+ 65	▲ 64	+ 96	▲ 4	+ 3		
千歳市中卒者数	( 891 )	( 894 )	( 863 )	( 915 )	( 859 )	( 848 )	( 859 )	( 826 )	▲ 65	▲ 89
対前年増減		+ 3	▲ 31	+ 52	▲ 56	▲ 11	+ 11	▲ 33		
恵庭市中卒者数	( 614 )	( 655 )	( 680 )	( 626 )	( 631 )	( 609 )	( 596 )	( 567 )	▲ 47	▲ 59
対前年増減		+ 41	+ 25	▲ 54	+ 5	▲ 22	▲ 13	▲ 29		
北広島市中卒者数	( 585 )	( 616 )	( 622 )	( 574 )	( 606 )	( 542 )	( 558 )	( 543 )	▲ 42	▲ 31
対前年増減		+ 31	+ 6	▲ 48	+ 32	▲ 64	+ 16	▲ 15		
石狩市中卒者数	( 540 )	( 559 )	( 531 )	( 571 )	( 493 )	( 500 )	( 491 )	( 511 )	▲ 29	▲ 60
対前年増減		+ 19	▲ 28	+ 40	▲ 78	+ 7	▲ 9	+ 20		
学校名	令和3年度 (2021年度)の状況 学科及び募集学級数			R 3 (2021) 欠員	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)	令和7～10年度(2025～2028年度) までの見通し		摘要
	普通	職業	計							
札幌東	8		8	0				<ul style="list-style-type: none"> <li>○4年間で公私比率勘案後12～13学級に相当する中卒者の減</li> <li>○各区、市町村ごとの中卒者数の状況、欠員の状況やこれまでの調整などを考慮した定員調整の検討が必要</li> <li>○札幌市内については、中卒者数の減にあわせて、生徒急増期に新設した高校を中心とした再編を含め、公立高校全体での定員調整の検討が必要</li> <li>○欠員が40人以上生じている学校について、学科の見直しや定員調整などについて検討が必要</li> <li>○定時制課程について、5月1日現在の第1学年の在籍者数が10人未満となり、その後も生徒数の増が見込まれない場合は、再編整備の検討が必要としているが、定時制課程の在り方については、国の施策動向を踏まえて検討することが必要(恵庭南)</li> </ul>	R3(2021)入選第2次募集後学級減	
札幌西	8		8	-1						
札幌南	8		8	-3						
札幌北	8		8	-3						
(札幌北)	(2→1)		(1)	(19)	[ 計画決定時に公表 ]					
札幌月寒	7		7	-4	普+1					
札幌啓成	8		8	0						
札幌北陵	7		7	0	普+1					
単 札幌手稲	7		7	0	普+1					
フ 札幌丘珠	7		7	6	普+1 [ フィールド制転換 ]					
札幌西陵	7		7	23						
単 札幌白石	7		7	1						
単 札幌東陵	7		7	34						
札幌南陵	4→3		3	10	[ 計画決定時に公表 ]					
札幌東豊	4→3		3	0	[ 計画決定時に公表 ]					
総 札幌厚別	7		7	-1						
札幌真栄	5		5	10						
フ 札幌あすかぜ	6→4		4	3	[ 計画決定時に公表 ]					
札幌稲雲	7		7	0						
フ 札幌平岡	6		6	0						
単 札幌英藍	7		7	-1						



学校名	令和3年度 (2021年度)の状況 学科及び募集学級数			R3 (2021) 欠員	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)	令和7～10年度(2025～2028年度) までの見通し	摘要
	普通	職業	計						
単 札幌白陵	4		4	32					
札幌国際情報	4	工 商	1 3	8	0				
江 別	5	商 家	1 1	7	31				
フ 野 幌	3		3	24	アンビシャススクール 〔フィールド制転換〕				
単 大 麻	7		7	-3					
千 歳	6	商	2	8	3				
フ 千歳北陽	4		4	15	普▲4総+4 アンビシャススクール 〔フィールド制転換〕				
単 北 広 島	7		7	-1					
北広島西	7→6		6	34	〔計画決定時 に公表〕				R3(2021)入選第2次募集 後学級減
石狩南	7		7	-2					
当 別	2	農 家	1 1	4	91				
恵庭南	7		7	42					
恵庭北	7→5		5	2	〔計画決定時 に公表〕				R3(2021)入選第2次募集 後学級減
札幌工業		工	8	8	4				
札幌琴似工業		工	8	8	63				
札幌東商業		商	8	8	42				
総 石狩翔陽	8		8	1					
単 *市立札幌旭丘	8		8	-1	普▲2 その他専門学科+2				理数と情報に関するその他専 門学科に一部学科転換
単 *市立札幌藻岩	6		6	0					
*市立札幌平岸	8		8	-1					
単 *市立札幌清田	6		6	-1					
中 等 *市立札幌開成	4		4	4					コズモサイエンス科単位制
*市立札幌新川	8		8	-1					
*市立札幌啓北商業		商	6	6	4				
44校	253→ 246	40	286	456	普+4 普▲6 総+4 その他専門学科+2				

※R4(2022)において、恵庭北を普通科7学級から1学級増の8学級とする計画であったが、令和3年度道立高等学校入学者選抜において第2次募集後の学級減により、2学級減の5学級となったため、R4(2022)の募集学級数は、中卒者数の状況などを勘案し、計画決定時に公表する。

後志学区高校配置計画案

区 分	R 3 (2021)	R 4 (2022)	R 5 (2023)	R 6 (2024)	R 7 (2025)	R 8 (2026)	R 9 (2027)	R 10 (2028)	令和4～10 (2022～ 2028)年まで の増減	令和7～ 10(2025～ 2028)年まで の増減
学区内中卒者数	1,413	1,429	1,394	1,374	1,371	1,345	1,302	1,246	▲ 167	▲ 128
対前年増減		+ 16	▲ 35	▲ 20	▲ 3	▲ 26	▲ 43	▲ 56		
小樽市中卒者数	( 780 )	( 767 )	( 722 )	( 722 )	( 703 )	( 682 )	( 684 )	( 619 )	▲ 161	▲ 103
対前年増減		▲ 13	▲ 45	± 0	▲ 19	▲ 21	+ 2	▲ 65		
学校名	令和3年度 (2021年度)の状況 学科及び募集学級数			R 3 (2021) 欠員	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)	令和7～10年度(2025～2028年度) までの見通し		摘要
	普通	職業	計							
小樽潮陵	6		6	-1		普▲1			○4年間で公私比率勘案後2～3学級に相当する中卒者の減	
単 小樽桜陽	5		5	-1					○欠員の状況や学校・学科の配置状況を考慮し、小樽市内において定員調整の検討が必要	
単 小樽未来創造		工 2 商 2	4	12					○小規模校について、中卒者数やこれまでの進学状況、学校・学科の配置状況などを考慮し、在り方の検討が必要	
小樽水産		水 4	4	11					○地域連携特例校及び農業に関する学科を置く高校について、5月1日現在の在籍者数が20人未満となった場合は、所在市町村をはじめとした地域における、高校の教育機能の維持向上に向けた具体的取扱いとその効果を勘案した上で、再編整備の留保の検討が必要	R3(2021)入選第2次募集後学級減
総 余市紅志	2→1		1	7	[ 計画決定時に公表 ]					
単 岩 内	3→2	商 1	3	34	[ 計画決定時に公表 ]					R3(2021)入選第2次募集後学級減
地 寿 都	1		1	21					○定時制課程について、5月1日現在の第1学年の在籍者数が10人未満となり、その後も生徒数の増が見込まれない場合は、再編整備の検討が必要としているが、定時制課程の在り方については、国の施策動向を踏まえて検討することが必要 (小樽潮陵、小樽未来創造)	蘭越の協力校
単 倶知安	4		4	36						
地 蘭 越	1		1	23						再編整備留保
倶知安農業		農 1	1	21						
10校	22 →20	10	30	163		普▲1				

胆振西学区高校配置計画案

区 分	R 3 (2021)	R 4 (2022)	R 5 (2023)	R 6 (2024)	R 7 (2025)	R 8 (2026)	R 9 (2027)	R 10 (2028)	令和4～10 (2022～ 2028)年まで の増減	令和7～ 10(2025～ 2028)年まで の増減
学区内中卒者数	1,362	1,388	1,349	1,320	1,219	1,192	1,191	1,168	▲ 194	▲ 152
対前年増減		+ 26	▲ 39	▲ 29	▲ 101	▲ 27	▲ 1	▲ 23		
室蘭市中卒者数	( 603 )	( 548 )	( 546 )	( 557 )	( 514 )	( 510 )	( 526 )	( 498 )	▲ 105	▲ 59
対前年増減		▲ 55	▲ 2	+ 11	▲ 43	▲ 4	+ 16	▲ 28		
登別市中卒者数	( 395 )	( 441 )	( 421 )	( 396 )	( 358 )	( 359 )	( 344 )	( 362 )	▲ 33	▲ 34
対前年増減		+ 46	▲ 20	▲ 25	▲ 38	+ 1	▲ 15	+ 18		
伊達市中卒者数	( 262 )	( 274 )	( 280 )	( 273 )	( 256 )	( 224 )	( 238 )	( 219 )	▲ 43	▲ 54
対前年増減		+ 12	+ 6	▲ 7	▲ 17	▲ 32	+ 14	▲ 19		
学校名	令和3年度 (2021年度)の状況 学科及び募集学級数			R 3 (2021) 欠員	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)	令和7～10年度 (2025～2028年度) までの見通し		摘要
	普通	職業	計							
室 蘭 栄	6		6	0		普▲1		○4年間で公私比率勘案後3～4学級に相当する中卒者の減		
単 室蘭清水丘	4		4	11				○中卒者数や欠員の状況、学校・学科の配置状況を考慮し、最大学級数を設置する室蘭市を中心に、周辺市を含め、再編整備を含めた定員調整の検討が必要。		
総 室蘭東翔	4		4	0				○欠員が40人以上生じている学校について、学科の見直しや定員調整などについて検討が必要		
室蘭工業		工 4	4	64						
単 登別青嶺	3		3	-2						
中 登別明日	2		2	8						
単 伊達開来	6→5		5	4	[ 計画決定時に公表 ]					虻田の協力校 R3(2021)入選第2次募集 後学級減
地 虻 田		商 1	1	22						再編整備留保
*壮 警		農 1	1	14						
9校	25 →24	6	30	121		普▲1				

### 胆振東学区高校配置計画案

区分	R 3 (2021)	R 4 (2022)	R 5 (2023)	R 6 (2024)	R 7 (2025)	R 8 (2026)	R 9 (2027)	R 10 (2028)	令和4～10 (2022～ 2028)年まで の増減	令和7～ 10(2025～ 2028)年まで の増減
学区内中卒者数	1,706	1,743	1,662	1,698	1,696	1,662	1,614	1,599	▲ 107	▲ 99
対前年増減		+ 37	▲ 81	+ 36	▲ 2	▲ 34	▲ 48	▲ 15		
苫小牧市中卒者数	( 1,455 )	( 1,490 )	( 1,450 )	( 1,487 )	( 1,454 )	( 1,439 )	( 1,432 )	( 1,395 )	▲ 60	▲ 92
対前年増減		+ 35	▲ 40	+ 37	▲ 33	▲ 15	▲ 7	▲ 37		
学校名	令和3年度 (2021年度)の状況 学科及び募集学級数			R 3 (2021) 欠員	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)	令和7～10年度 (2025～2028年度) までの見通し	摘要	
	普通	職業	計							
苫小牧東	6		6	0				○4年間で公私比率勘案後1～2学級に相当する中卒者の減  ○これまでの定員調整の状況や学校・学科の配置状況などを考慮し、苫小牧市内及び苫小牧市周辺町において、再編整備を含めた定員調整の検討が必要  ○小規模校について、中卒者数やこれまでの進学状況、学校・学科の配置状況などを考慮し、在り方の検討が必要  ○地域連携特例校について、再編整備が留保された場合にあっても、5月1日現在の第1学年の在籍者数が2年連続して10人未満となった場合は、再編整備を進めることとしているため、本年度10人未満となっている高校については、生徒数の確保に向け、一層魅力ある高校づくりが必要	厚真の協力校	
苫小牧西	4		4	0			穂別の協力校			
単 苫小牧南	4		4	-1						
苫小牧工業		工 6	6	13						
苫小牧総合経済		商 3	3	0						
白老東	2		2	27						
地 厚 真	1		1	13						
地 穂 別	1		1	33			再編整備留保			
追 分	1		1	11						
中高 鷗 川	2		2	28						
10校	21	9	30	124						

日高学区高校配置計画案

区 分	R 3 (2021)	R 4 (2022)	R 5 (2023)	R 6 (2024)	R 7 (2025)	R 8 (2026)	R 9 (2027)	R 10 (2028)	令和4～10 (2022～ 2028)年まで の増減	令和7～ 10(2025～ 2028)年まで の増減
学区内中卒者数	509	549	510	497	471	486	460	476	▲ 33	▲ 21
対前年増減		+ 40	▲ 39	▲ 13	▲ 26	+ 15	▲ 26	+ 16		
浦河町中卒者数	( 97 )	( 90 )	( 94 )	( 101 )	( 73 )	( 102 )	( 72 )	( 84 )	▲ 13	▲ 17
対前年増減		▲ 7	+ 4	+ 7	▲ 28	+ 29	▲ 30	+ 12		
学校名	令和3年度 (2021年度)の状況 学科及び募集学級数			R 3 (2021) 欠員	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)	令和7～10年度(2025～2028年度) までの見通し		摘要
	普通	職業	計							
単 静 内	5		5	37					○4年間で0～1学級に相当する中卒者の減 ○中卒者数や欠員の状況を考慮し、学区全体の高校配置の在り方について検討が必要 ○小規模校について、中卒者数や地元からの進学状況、学校・学科の配置状況などを考慮し、在り方の検討が必要 ○第1学年1学級の高校のうち、地理的状況から再編が困難であり、かつ地元からの進学率が高い高校については、教育環境の維持向上を図るため、地域連携特例校の導入の検討が必要	平取の協力校
静内農業		農 2	2	37						
富 川	1		1	14						
地 平 取	1		1	25						再編整備留保
総 浦 河	3		3	21						
中高 *えりも	2		2	46						
6校	12	2	14	180						

### 渡島学区高校配置計画案

区 分	R 3 (2021)	R 4 (2022)	R 5 (2023)	R 6 (2024)	R 7 (2025)	R 8 (2026)	R 9 (2027)	R 10 (2028)	令和4～10 (2022～ 2028)年まで の増減	令和7～ 10(2025～ 2028)年まで の増減
学区内中卒者数	2,969	2,982	2,781	2,944	2,768	2,661	2,676	2,511	▲ 458	▲ 433
対前年増減		+ 13	▲ 201	+ 163	▲ 176	▲ 107	+ 15	▲ 165		
函館市中卒者数	( 1,855 )	( 1,918 )	( 1,767 )	( 1,893 )	( 1,770 )	( 1,737 )	( 1,746 )	( 1,607 )	▲ 248	▲ 286
対前年増減		+ 63	▲ 151	+ 126	▲ 123	▲ 33	+ 9	▲ 139		
北斗市中卒者数	( 431 )	( 451 )	( 422 )	( 454 )	( 396 )	( 366 )	( 374 )	( 373 )	▲ 58	▲ 81
対前年増減		+ 20	▲ 29	+ 32	▲ 58	▲ 30	+ 8	▲ 1		
学校名	令和3年度 (2021年度)の状況 学科及び募集学級数			令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)	令和7～10年度 (2025～2028年度) までの見通し			摘要
	普通	職業	計	R 3 (2021) 欠員						
函館中部	5		5	0	普▲1 理+1				○4年間で公私比率勘案後6～7学級に相当する中卒者の減	南茅部の協力校
単 函館西	6		6	3					○中卒者数やこれまでの調整、学校・学科の配置状況を考慮し、函館市内において、定員調整の検討が必要	松前の協力校
単 *市立函館	6		6	0	普▲1				○中卒者数や欠員の状況を考慮し、学校・学科の配置の在り方も含め、北斗市内において、再編整備を含めた定員調整の検討が必要	
函館水産		水 4	4	35					○欠員が40人以上生じている学校について、学科の見直しや定員調整などについて検討が必要	福島商業の協力校
函館商業		商 4	4	0					○小規模校について、中卒者数やこれまでの進学状況、学校・学科の配置状況などを考慮し、在り方の検討が必要 特に、地域連携特別校等以外の第1学年1学級の高校が、地域連携特別校等の再編整備の取扱い(第1学年の在籍者数が20人未満となり、その後も生徒数の増が見込まれない場合)と同様の在籍状況となる場合は、再編整備の検討が必要	
函館工業		工 5	5	11					○地域連携特別校について、5月1日現在の在籍者数が20人未満となった場合は、所在市町村をはじめとした地域における、高校の教育機能の維持向上に向けた具体的取扱いとその効果を勘案した上で、再編整備の留保の検討が必要 また、再編整備が留保された場合であっても、5月1日現在の第1学年の在籍者数が2年連続して10人未満となった場合は、再編整備を進めることとしているため、本年度10人未満となっている高校については、生徒数の確保に向け、一層魅力ある高校づくりが必要	再編整備留保
地 南茅部	1		1	31						
上 磯	1		1	28						
七 飯	3		3	13						
大野農業		農 3	3	44						
地 松 前	1		1	14						
*知内	2		2	31						
地 福島商業		商 1	1	29						再編整備留保
八 雲	2	商 1	3	40						長万部の協力校
総 森	2→1		1	8	( 計画決定時に公表 )					R3(2021)入選第2次募集後学級減
地 長万部	1		1	21						
16校	30→ 29	18	47	308	普▲1 理+1	普▲1				

**檜山学区高校配置計画案**

区 分		R 3 (2021)	R 4 (2022)	R 5 (2023)	R 6 (2024)	R 7 (2025)	R 8 (2026)	R 9 (2027)	R 10 (2028)	令和4～10 (2022～ 2028)年まで の増減	令和7～ 10(2025～ 2028)年まで の増減
学区内中卒者数		243	228	225	193	209	216	204	179	▲ 64	▲ 14
対前年増減			▲ 15	▲ 3	▲ 32	+ 16	+ 7	▲ 12	▲ 25		
江差町中卒者数		( 52 )	( 46 )	( 57 )	( 44 )	( 39 )	( 38 )	( 38 )	( 33 )	▲ 19	▲ 11
対前年増減			▲ 6	+ 11	▲ 13	▲ 5	▲ 1	± 0	▲ 5		
学校名	令和3年度 (2021年度)の状況 学科及び募集学級数			R 3 (2021) 欠員	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)	令和7～10年度(2025～2028年度) までの見通し		摘要	
	普通	職業	計								
単 江 差	3→2		2	16	( 計画決定時 に公表 )			○4年間で0～1学級に相当する中卒者の減 ○小規模校について、中卒者数やこれまでの 進学状況、学校・学科の配置状況などを考 慮し、在り方の検討が必要		上ノ国の協力校 R3(2021)入選第2次募集 後学級減	
地 上ノ国	1		1	25			再編整備留保				
総 檜山北	2		2	24							
中高 *奥尻	1		1	15							
4校	7→6	0	6	80							

上川南学区高校配置計画案

区 分		R 3 (2021)	R 4 (2022)	R 5 (2023)	R 6 (2024)	R 7 (2025)	R 8 (2026)	R 9 (2027)	R 10 (2028)	令和4～10 (2022～ 2028)年まで の増減	令和7～ 10(2025～ 2028)年まで の増減
学区内中卒者数		3,443	3,493	3,327	3,305	3,202	3,187	3,184	3,046	▲ 397	▲ 259
対前年増減			+ 50	▲ 166	▲ 22	▲ 103	▲ 15	▲ 3	▲ 138		
旭川市中卒者数		( 2,629 )	( 2,712 )	( 2,553 )	( 2,568 )	( 2,485 )	( 2,442 )	( 2,462 )	( 2,335 )	▲ 294	▲ 233
対前年増減			+ 83	▲ 159	+ 15	▲ 83	▲ 43	+ 20	▲ 127		
富良野市中卒者数		( 169 )	( 166 )	( 162 )	( 161 )	( 137 )	( 168 )	( 149 )	( 151 )	▲ 18	▲ 10
対前年増減			▲ 3	▲ 4	▲ 1	▲ 24	+ 31	▲ 19	+ 2		
学校名	令和3年度 (2021年度)の状況 学科及び募集学級数			R 3 (2021) 欠員	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)	令和7～10年度 (2025～2028年度) までの見通し		摘要	
	普通	職業	計								
旭川東	6		6	-3						○4年間で公私比率勘案後4～5学級に相当する中卒者の減	
単 旭川西	5		5	0						○中卒者数やこれまでの調整などを考慮し、旭川市内や旭川市周辺町において、学校・学科の配置の在り方を含めた再編整備や定員調整の検討が必要	
単 旭川北	6		6	0		普▲1				また、富良野市における検討結果を踏まえた高校配置の検討が必要	
総 旭川南	6		6	0		総▲1				○小規模校について、中卒者数やこれまでの進学状況、学校・学科の配置状況などを考慮し、在り方の検討が必要	
単 旭川永嶺	6		6	0		普▲1				特に、地域連携特例校等以外の第1学年1学級の高校が、地域連携特例校等の再編整備の取扱い(第1学年の在籍者数が20人未満となり、その後も生徒数の増が見込まれない場合)と同様の在籍状況となる場合は、再編整備の検討が必要	
旭川商業		商 5	5	0							
旭川工業		工 6	6	9							
旭川農業		農 4	4	-3						○第1学年1学級の高校のうち、地理的状況等から再編が困難であり、かつ地元からの進学率が高い高校については、教育環境の維持向上を図るため、地域連携特例校の導入の検討が必要	
鷹 栖	1		1	9							
東 川	2		2	19							
美 瑛	2→1		1	9							R3(2021)入選第2次募集後学級減
中高 上 川	1		1	26							
単 富良野	4		4	32							
富良野緑峰		商 1 農 1 工 1	3	64							
上富良野	1		1	8							
*南富良野	1		1	37							
16校	41→ 40	18	58	207		普▲2 総▲1					



上川北学区高校配置計画案

区分	R 3 (2021)	R 4 (2022)	R 5 (2023)	R 6 (2024)	R 7 (2025)	R 8 (2026)	R 9 (2027)	R 10 (2028)	令和4～10 (2022～ 2028)年まで の増減	令和7～ 10(2025～ 2028)年まで の増減
学区内中卒者数	465	470	454	428	429	403	403	399	▲ 66	▲ 29
対前年増減		+ 5	▲ 16	▲ 26	+ 1	▲ 26	± 0	▲ 4		
士別市中卒者数	( 142 )	( 132 )	( 142 )	( 118 )	( 127 )	( 110 )	( 120 )	( 89 )	▲ 53	▲ 29
対前年増減		▲ 10	+ 10	▲ 24	+ 9	▲ 17	+ 10	▲ 31		
名寄市中卒者数	( 186 )	( 228 )	( 203 )	( 204 )	( 188 )	( 185 )	( 191 )	( 198 )	+ 12	▲ 6
対前年増減		+ 42	▲ 25	+ 1	▲ 16	▲ 3	+ 6	+ 7		
学校名	令和3年度 (2021年度)の状況 学科及び募集学級数			R 3 (2021) 欠員	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)	令和7～10年度(2025～2028年度) までの見通し		摘要
	普通	職業	計							
士別翔雲	3	商 1	4	50				○4年間で0～1学級に相当する中卒者の減 ○欠員が40人以上生じている学校について、 学科の見直しや定員調整などについて 検討が必要	下川商業の協力校	
地 下川商業		商 1	1	5						
名 寄	3		3	38		普▲3			美深の協力校	
産 名寄産業		工 1 農 1 家 1	3	86		工▲1 農▲1 家▲1				
新 設 校					普+4 工+1 単位制導入 (計画変更)				名寄高校校舎を使用	
地 美 深	1		1	11						
総 *剣 淵	1		1	19						
*おといねっぶ 美術工芸	1		1	3						
7校	9	5	14	212		普+4 普▲3 工+1 工▲1 農▲1 家▲1				

留萌学区高校配置計画案

区 分	R 3 (2021)	R 4 (2022)	R 5 (2023)	R 6 (2024)	R 7 (2025)	R 8 (2026)	R 9 (2027)	R 10 (2028)	令和4～10 (2022～ 2028)年まで の増減	令和7～ 10(2025～ 2028)年まで の増減
学区内中卒者数	295	292	309	285	265	280	260	265	▲ 30	▲ 20
対前年増減		▲ 3	+ 17	▲ 24	▲ 20	+ 15	▲ 20	+ 5		
留萌市中卒者数	( 159 )	( 138 )	( 149 )	( 129 )	( 120 )	( 119 )	( 127 )	( 105 )	▲ 54	▲ 24
対前年増減		▲ 21	+ 11	▲ 20	▲ 9	▲ 1	+ 8	▲ 22		
学校名	令和3年度 (2021年度)の状況 学科及び募集学級数 普通 職業 計			R 3 (2021) 欠員	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)	令和7～10年度(2025～2028年度) までの見通し		摘要
単 留 萌	4→3	工 1 商 1	5	42	[ 計画決定時 に公表 ]			○4年間で0～1学級に相当する中卒者の減 ○欠員が40人以上生じている学校について、 学科の見直しや定員調整などについて 検討が必要		苫前商業の協力校 普通科単位制 R3(2021)入選第2次募集後 学級減
羽 幌	2		2	24				○小規模校について、中卒者数やこれまでの 進学状況、学校・学科の配置状況などを考 慮し、在り方の検討が必要		再編整備留保
地 苫前商業		商 1	1	32				○地域連携特別校及び農業に関する学科を置 く高校について、5月1日現在の在籍者数 が20人未満となった場合は、所在市町村 をはじめとした地域における、高校の教育 機能の維持向上に向けた具体的取扱いとその 効果を勘案した上で、再編整備の留保の検 討が必要		R3(2021)入選第2次募集 後学級減
天 塩	2→1		1	18	[ 計画決定時 に公表 ]			また、再編整備が留保された場合にあつ ても、5月1日現在の第1学年の在籍者数 が2年連続して10人未満となった場合 は、再編整備を進めることとしているた め、本年度10人未満となっている高校に ついては、生徒数の確保に向け、一層魅力 ある高校づくりが必要		
遠別農業		農 1	1	28						
5校	8→ 6	4	10	144						

### 宗谷学区高校配置計画案

区 分	R 3 (2021)	R 4 (2022)	R 5 (2023)	R 6 (2024)	R 7 (2025)	R 8 (2026)	R 9 (2027)	R 10 (2028)	令和4～10 (2022～ 2028)年まで の増減	令和7～ 10(2025～ 2028)年まで の増減
	学区内中卒者数	505	499	466	452	430	408	399	397	▲ 108
対前年増減		▲ 6	▲ 33	▲ 14	▲ 22	▲ 22	▲ 9	▲ 2		
稚内市中卒者数	( 264 )	( 269 )	( 237 )	( 230 )	( 227 )	( 224 )	( 207 )	( 217 )	▲ 47	▲ 13
対前年増減		+ 5	▲ 32	▲ 7	▲ 3	▲ 3	▲ 17	+ 10		
学校名	令和3年度 (2021年度)の状況 学科及び募集学級数			R 3 (2021) 欠員	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)	令和7～10年度(2025～2028年度) までの見通し		摘要
	普通	職業	計							
単 稚 内	3	商 1 看 1	5	40				<ul style="list-style-type: none"> <li>○4年間で公私比率勘案後1～2学級に相当する中卒者の減</li> <li>○欠員が40人以上生じている学校について、中卒者数も考慮し、学科の見直しや定員調整などについて早急な検討が必要</li> <li>○小規模校について、中卒者数やこれまでの進学状況、学校・学科の配置状況などを考慮し、在り方の検討が必要</li> <li>○第1学年1学級の高校のうち、地理的状况から再編が困難であり、かつ地元からの進学率が高い高校については、教育環境の維持向上を図るため、地域連携特例校の導入の検討が必要</li> <li>○地域連携特例校について、5月1日現在の在籍者数が20人未満となった場合は、所在市町村をはじめとした地域における、高校の教育機能の維持向上に向けた具体的取扱とその効果を勘案した上で、再編整備の留保の検討が必要</li> </ul>		豊富な協力校 普通科、商業科単位制
地 豊 富	1		1	28						
浜 頓 別	1		1	4						
枝 幸	2		2	35						
利 尻	1	商 1	2	58	▲ 1 (学科検討中)					
礼 文	1		1	22						
6校	9	3	12	187	▲ 1 (学科検討中)					

オホーツク中学区高校配置計画案

区分	R 3 (2021)	R 4 (2022)	R 5 (2023)	R 6 (2024)	R 7 (2025)	R 8 (2026)	R 9 (2027)	R 10 (2028)	令和4～10 (2022～ 2028)年まで の増減	令和7～ 10(2025～ 2028)年まで の増減
学区内中卒者数	1,127	1,169	1,145	1,177	1,097	1,171	1,058	1,110	▲ 17	▲ 67
対前年増減		+ 42	▲ 24	+ 32	▲ 80	+ 74	▲ 113	+ 52		
北見市中卒者数	( 865 )	( 876 )	( 908 )	( 913 )	( 836 )	( 891 )	( 810 )	( 855 )	▲ 10	▲ 58
対前年増減		+ 11	+ 32	+ 5	▲ 77	+ 55	▲ 81	+ 45		
学校名	令和3年度 (2021年度)の状況 学科及び募集学級数			R 3 (2021) 欠員	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)	令和7～10年度(2025～2028年度) までの見通し		摘要
	普通	職業	計							
北見北斗	6		6	5	普▲1 理+1			○4年間で公私比率勘案後1～2学級に相当する中卒者の減	常呂の協力校	
単 北見柏陽	5		5	0				○中卒者数や欠員の状況、学校・学科の配置状況などを考慮し、北見市内で再編を含めた定員調整の検討が必要	佐呂間の協力校	
単 北見緑陵	3		3	2				○小規模校について、中卒者数やこれまでの進学状況、学校・学科の配置状況などを考慮し、在り方の検討が必要		
北見工業		工 3	3	19				特に、地域連携特例校等以外の第1学年1学級の高校が、地域連携特例校等の再編整備の取扱い(第1学年の在籍者数が20人未満となり、その後も生徒数の増が見込まれない場合)と同様の在籍状況となる場合は、再編整備の検討が必要		
北見商業		商 3	3	35						
置 戸		福 1	1	30					再編整備留保	
総 留 辺 薬	1		1	28		総▲1		○地域連携特例校について、5月1日現在の在籍者数が20人未満となった場合は、所在市町村をはじめとした地域における、高校の教育機能の維持向上に向けた具体的取扱いとその効果を勘案した上で、再編整備の留保の検討が必要		
地 佐 呂 間	1		1	14						
地 常 呂	1		1	25					再編整備留保	
訓 子 府	1		1	28						
地 津 別	1		1	29						
美 幌	2→1	農 2	3	63	( 計画決定時に公表 )	農▲1			津別の協力校 R3(2021)入選第2次募集 後学級減	
12校	21→ 20	9	29	278	普▲1 理+1	総▲1 農▲1				

**オホーツク東学区高校配置計画案**

区 分	R 3 (2021)	R 4 (2022)	R 5 (2023)	R 6 (2024)	R 7 (2025)	R 8 (2026)	R 9 (2027)	R 10 (2028)	令和4～10 (2022～ 2028)年まで の増減	令和7～ 10(2025～ 2028)年まで の増減
学区内中卒者数	510	491	441	496	473	467	483	435	▲ 75	▲ 61
対前年増減		▲ 19	▲ 50	+ 55	▲ 23	▲ 6	+ 16	▲ 48		
網走市中卒者数	( 306 )	( 264 )	( 239 )	( 254 )	( 256 )	( 250 )	( 255 )	( 224 )	▲ 82	▲ 30
対前年増減		▲ 42	▲ 25	+ 15	+ 2	▲ 6	+ 5	▲ 31		
学校名	令和3年度 (2021年度)の状況 学科及び募集学級数 普通   職業   計			R 3 (2021) 欠員	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)	令和7～10年度(2025～2028年度) までの見通し		摘要
単 網走南ヶ丘	4		4	0				○4年間で1～2学級に相当する中卒者の減 ○小規模校について、中卒者数やこれまでの進学状況、学校・学科の配置状況などを考慮し、在り方の検討が必要 ○第1学年1学級の高校のうち、地理的状況等から再編が困難であり、かつ地元からの進学率が高い高校については、教育環境の維持向上を図るため、地域連携特例校の導入の検討が必要		清里の協力校
網走桂陽	2	商 2	4	16						
総 斜 里	1		1	13						
地 清 里	1		1	2						
総 *大 空	1		1	11						
5校	9	2	11	42						

オホーツク西学区高校配置計画案

区分	R 3 (2021)	R 4 (2022)	R 5 (2023)	R 6 (2024)	R 7 (2025)	R 8 (2026)	R 9 (2027)	R 10 (2028)	令和4～10 (2022～ 2028)年まで の増減	令和7～ 10(2025～ 2028)年まで の増減
学区内中卒者数	456	421	422	397	381	412	408	360	▲ 96	▲ 37
対前年増減		▲ 35	+ 1	▲ 25	▲ 16	+ 31	▲ 4	▲ 48		
紋別市中卒者数	( 157 )	( 139 )	( 143 )	( 129 )	( 121 )	( 141 )	( 145 )	( 116 )	▲ 41	▲ 13
対前年増減		▲ 18	+ 4	▲ 14	▲ 8	+ 20	+ 4	▲ 29		
学校名	令和3年度 (2021年度)の状況 学科及び募集学級数			R 3 (2021) 欠員	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)	令和7～10年度 (2025～2028年度) までの見通し		摘要
	普通	職業	計							
単 遠 軽	5		5	33				○4年間で0～1学級に相当する中卒者の減		
紋 別	3	商 1 工 1	5	48				○欠員が40人以上生じている学校について、学科の見直しや定員調整などについて検討が必要	興部、雄武の協力校	
地 興 部	1		1	26				○小規模校について、中卒者数やこれまでの進学状況、学校・学科の配置状況などを考慮し、在り方の検討が必要	再編整備留保	
地 雄 武	1		1	22				○地域連携特例校について、5月1日現在の第1学年の在籍者数が20人未満となった場合は、所在市町村をはじめとした地域における、高校の教育機能の維持向上に向けた具体的取組とその効果を勘案した上で、再編整備の留保の検討が必要		
中 湧 別	2→1		1	7	( 計画決定時 に 公 表 )					R3(2021)入選第2次募集 後学級減
5校	12→ 11	2	13	136						

十勝学区高校配置計画案

区 分		R 3 (2021)	R 4 (2022)	R 5 (2023)	R 6 (2024)	R 7 (2025)	R 8 (2026)	R 9 (2027)	R 10 (2028)	令和4～10 (2022～ 2028)年まで の増減	令和7～ 10(2025～ 2028)年まで の増減
学区内中卒者数		2,860	2,858	2,883	2,848	2,750	2,739	2,739	2,625	▲ 235	▲ 223
対前年増減			▲ 2	+ 25	▲ 35	▲ 98	▲ 11	± 0	▲ 114		
帯広市中卒者数		( 1,275 )	( 1,321 )	( 1,317 )	( 1,346 )	( 1,307 )	( 1,296 )	( 1,331 )	( 1,282 )	+ 7	▲ 64
対前年増減			+ 46	▲ 4	+ 29	▲ 39	▲ 11	+ 35	▲ 49		
学校名	令和3年度 (2021年度)の状況 学科及び募集学級数			R 3 (2021) 欠員	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)	令和7～10年度(2025～2028年度) までの見通し		摘要	
	普通	職業	計								
帯広柏葉	6		6	0						<ul style="list-style-type: none"> <li>○4年間で公私比率勘案後4～5学級に相当する中卒者の減</li> <li>○これまでの調整や生徒の進路動向を考慮し、帯広市内及び帯広市周辺町において、学校・学科の配置の在り方を含めた公立高校全体での再編整備や定員調整の検討が必要</li> <li>○欠員が40人以上生じている学校について、学科の見直しや定員調整などについて検討が必要</li> <li>○小規模校について、中卒者数やこれまでの進学状況、学校・学科の配置状況などを考慮し、在り方の検討が必要</li> <li>○第1学年1学級の高校のうち、地理的状況等から再編が困難であり、かつ地元からの進学率が高い高校については、教育環境の維持向上を図るため、地域連携特例校の導入の検討が必要</li> </ul>	本別の協力校
単 帯広三条	6		6	0							
帯広緑陽	4		4	0							
帯広工業		工 4	4	0							
帯広農業		農 5	5	5							
*帯広南商業		商 5	5	9							
単 音 更	3→2		2	17	( 計画決定時に公表 )						R3(2021)入選第2次募集後学級減
芽 室	4		4	9							
幕別清陵	3		3	8							
上 土 幌	2		2	25							
*土 幌		農 2	2	42							
総 清 水	3		3	39							
中高 鹿 追	2		2	24							
更別農業		農 2	2	47							
大 樹	1		1	18							
中高 広 尾	2→1		1	2	( 計画決定時に公表 )					R3(2021)入選第2次募集後学級減	
総 池 田	2		2	35							
本 別	2→1		1	9	地域連携特例校導入(計画変更) ( 募集学級数は計画決定時に公表 )					R3(2021)入選第2次募集後学級減	
足 寄	2		2	16							
19校	42→39	18	57	305							

釧路学区高校配置計画案

区 分		R 3 (2021)	R 4 (2022)	R 5 (2023)	R 6 (2024)	R 7 (2025)	R 8 (2026)	R 9 (2027)	R 10 (2028)	令和4～10 (2022～ 2028)年まで の増減	令和7～ 10(2025～ 2028)年まで の増減		
学区内中卒者数		1,773	1,815	1,798	1,656	1,615	1,594	1,524	1,428	▲ 345	▲ 228		
対前年増減			+ 42	▲ 17	▲ 142	▲ 41	▲ 21	▲ 70	▲ 96				
釧路市中卒者数		( 1,303 )	( 1,336 )	( 1,347 )	( 1,204 )	( 1,197 )	( 1,190 )	( 1,144 )	( 1,067 )	▲ 236	▲ 137		
対前年増減			+ 33	+ 11	▲ 143	▲ 7	▲ 7	▲ 46	▲ 77				
学校名	令和3年度 (2021年度)の状況 学科及び募集学級数 普通 職業 計			R 3 (2021) 欠員	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)	令和7～10年度(2025～2028年度) までの見通し		摘要			
釧路湖陵	6		6	-1			普▲1	○4年間で公私比率勘案後5～6学級に相当する中卒者の減 ○これまでの調整や生徒の進路動向を考慮し、釧路市内及び釧路市周辺町において、学校・学科の配置の在り方を含めた公立高校全体での再編整備や定員調整の早急な検討が必要 ○欠員が40人以上生じている学校について、学科の見直しや定員調整などについて検討が必要 ○小規模校について、中卒者数やこれまでの進学状況、学校・学科の配置状況などを考慮し、在り方の検討が必要 ○第1学年1学級の高校のうち、地理的状況等から再編が困難であり、かつ地元からの進学率が高い高校については、教育環境の維持向上を図るため、地域連携特例校の導入の検討が必要		阿寒の協力校			
単 釧路江南	5		5	0									
釧路商業		商 4	4	10			商▲1						
釧路工業		工 5	5	26									
総 釧路明輝	5		5	0			総▲1						
フ *釧路北陽	5		5	13	単位制導入 [フィールド制転換]								
釧路東	3		3	12			普▲1						
地 阿 寒	1		1	23								再編整備留保	
白 糠	1		1	17									
総 標 茶	2		2	22									
弟子屈	1		1	17									
厚岸翔洋	1	水 1	2	53									
*霧多布	2		2	40									
13校	32	10	42	232			普▲2 商▲1 総▲1						



根室学区高校配置計画案

区分	R 3 (2021)	R 4 (2022)	R 5 (2023)	R 6 (2024)	R 7 (2025)	R 8 (2026)	R 9 (2027)	R 10 (2028)	令和4～10 (2022～ 2028)年まで の増減	令和7～ 10(2025～ 2028)年まで の増減
学区内中卒者数	649	675	642	620	583	538	585	541	▲ 108	▲ 79
対前年増減		+ 26	▲ 33	▲ 22	▲ 37	▲ 45	+ 47	▲ 44		
根室市中卒者数	( 196 )	( 204 )	( 194 )	( 180 )	( 158 )	( 141 )	( 152 )	( 142 )	▲ 54	▲ 38
対前年増減		+ 8	▲ 10	▲ 14	▲ 22	▲ 17	+ 11	▲ 10		
学校名	令和3年度 (2021年度)の状況 学科及び募集学級数 普通 職業 計			R 3 (2021) 欠員	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)	令和7～10年度(2025～2028年度) までの見通し		摘要
単 根 室	3	商 2	5	38				○4年間で1～2学級に相当する中卒者の減 ○中卒者数やこれまでの定員調整の状況、欠員の状況を考慮した定員調整の検討が必要 ○欠員が40人以上生じている学校について、学科の見直しや定員調整などについて検討が必要 ○小規模校について、中卒者数やこれまでの進学状況、学校・学科の配置状況などを考慮し、在り方の検討が必要 ○地域連携特例校について、5月1日現在の在籍者数が20人未満となった場合は、所在市町村をはじめとした地域における、高校の教育機能の維持向上に向けた具体的取扱いとその効果を勘案した上で、再編整備の留保の検討が必要 また、再編整備が留保された場合であっても、5月1日現在の第1学年の在籍者数が2年連続して10人未満となった場合は、再編整備を進めることとしているため、本年度10人未満となっている高校については、生徒数の確保に向け、一層魅力ある高校づくりが必要		標津、羅臼の協力校 R 3 (2021)入選第2次募集後学級減  R 3 (2021)入選第2次募集後学級減
別 海	3	農 1	4	65						
中 標 津	4→3	商 1	4	12	[ 計画決定時に公表 ]					
標 津	2→1		1	8	地域連携特例校導入(計画変更) [ 募集学級数は計画決定時に公表 ]					
*中標津農業		農 2	2	27						
中高地 羅 臼	1		1	33						
6校	13→11	6	17	183						

《全学区共通事項》  
 令和4年度(2022年度)以降の各通学区域における生徒の進路動向を見極めて、毎年度再検討するとともに、新たに計画に反映させるものとする。